

地 域 再 生 計 画

1. 地域再生計画の名称
まるごと自然～但馬中央の郷計画
2. 地域再生計画の作成主体の名称
兵庫県、養父市
3. 地域再生計画の区域
養父市の全域

4. 地域再生計画の目標

(1) 養父市の概要

養父市は、平成 16 年 4 月 1 日に旧養父郡 4 町（八鹿町、養父町、大屋町、関宮町）の合併により誕生した。地理的には兵庫県北部の但馬地域の中央に位置し、山岳高原地帯など豊かな自然を有している。面積は、422.78 平方kmと広大で、兵庫県の 5.0%、但馬地域の 19.8%を占めている。

気候は、裏日本型で、一般に多雨多湿、冬季は大陸からの季節風が強く、積雪も多い。山沿いの集落では、一夜に 1m を超す雪が積もることも珍しくない。

交通については、JR 山陰本線が通っており、市内に 2 つの駅がある。また、京阪神と山陰を結ぶ主要な幹線道路である国道 9 号が東西に、姫路方面と山陰を結ぶ国道 312 号が南北に通っており、9 号と 312 号の交点で山陰地方への分岐点となっている。また、但馬の中央部にあり、但馬各地から集まりやすい位置でもある。さらに、北近畿豊岡自動車道・和田山八鹿道路の工事が始まり、市内にもインターチェンジが 2 箇所設置される予定である。

今後、高速交通ネットワークに組み込まれる事などで北近畿や但馬地域での結節点の性格が強くなる一方、京阪神との近接性も高まると予想される。

しかし、市内の集落間を結ぶ道路、幹線道路から観光地・景勝地を結ぶ道路、各旧町と市役所を結ぶ道路、林産地と幹線道路・林業施設（木材市場）を結ぶ道路など末端の市道、林道などが未整備のため、しばしば大渋滞が生じている。

(2) 養父市の特性

ア 自然が豊富で美しい山岳・高原地帯

市内には、兵庫県最高峰の氷ノ山(1,510m)やハチ高原、妙見山、若杉高原など山岳高原地帯があり、森林面積は、市域の約 84%を占めており、氷ノ山後山那岐山国定公園に指定されている。その森林には、多くの動植物が生息しており、特に国の天然記念物に指定されているイヌワシは、氷ノ山の周辺に最も多く生息しているといわれている。

近畿地方と中国地方の境界にそびえる氷ノ山は、「21 世紀に残したい日本の自然

100 選」及び「日本の秘境 100 選」に選ばれており、京阪神地域を中心に多くの観光客が訪れている。また、暖地植物から高山植物が見られるとともに中国地方植物の東限、北方植物の南限となる植物も多く自生していることから、日本の植物分布上で注目される地点である。

イ 清らかな川と兵庫県最大規模を誇る名瀑「天滝」

氷ノ山から源を発する清流・八木川、大屋川が円山川に合流し、市の中心部を流れ、豊岡市へとそそいでいる。

市内には、「日本の滝 100 選」に選ばれた天滝（落差 98m・兵庫県最大規模）、布滝（落差 65m）などダイナミックな美しい滝が数多くある。滝巡りをしながらハイキングが楽しみ、関西圏・中国地方から多くのハイカーや登山客を集めている。

ウ 歴史と文化

養父市には、国指定重要文化財・名草神社の三重塔、国指定重要文化財・葛畑農村歌舞伎舞台、国指定文化財・八木城跡、県下最古の縄文遺跡・家野遺跡、但馬有数の古社・養父神社、真言宗の名刹・万福寺、国の天然記念物・樽見の大桜などの中世・近代遺産、由緒ある寺社・仏閣など歴史文化遺産が数多く存在し、奥米地のねっぺい相撲、別宮のお綱打ち、大杉ざんごこ踊、若杉ざんごか踊、九鹿ざんごか踊、養父のお走りさんなどの伝統行事も継承されている。

（3）これまで行ってきた施策

養父市には、養父神社、万福寺、家野遺跡、八木城跡などの歴史遺産、名草神社の三重塔、葛畑農村歌舞伎舞台などの文化遺産、青谿書院、山田風太郎記念館、上垣守国養蚕記念館など郷土の偉人を顕彰した施設、石ヶ堂古代村、但馬長寿の郷、天文館「バルーンようか」、ほたるの里、内山いちごの国、とが山温泉・天女の湯、関宮温泉・万灯の湯、道の駅「但馬蔵」、道の駅「但馬楽座」・養父温泉、道の駅養父「グリーンビレッジ」などの洗練された交流施設、氷ノ山、ハチ高原、若杉高原などのスキー場を最大限に活かし、京阪神はもとより中国・四国地方からの誘客を積極的に推進している。

また、スキー場を利用した各種イベント、氷ノ山登山大会、ほたるの里で催される「ほたるまつり」、また全国から多数のランナーが集まる「ようか八木川マラソン」、「春一番大屋川ジョギング大会」などを毎年実施し、交流促進や誘客を図っている。

（4）現状と課題

ア 停滞している道路網整備

工事が始まった北近畿豊岡自動車道・和田山八鹿道路や国道 9 号・312 号、主要地方道など幹線道路の整備は順次進められているが、市内の集落間を結ぶ道路、幹線道路から観光地・景勝地を結ぶ道路、集落から幹線道路を結ぶ道路、各旧町と市役所を結ぶ道路、林産地と幹線道路・林業施設（木材市場）を結ぶ道路など末端の市道、林道などが未整備のため、しばしば大渋滞が生じている。

イ 進む自然の荒廃とその対策

戦後、広葉樹を伐採し、杉・桧などの針葉樹を植林したが、木材価格の低迷により、森林を放置してきた。未整備の針葉樹林が多くなった上に樹高が高くなったため、災害に弱い森林へと化してきた。平成16年の台風23号では、但馬各地でかつてない多くの風倒木があり、森林に対する施策のあり方が問題になっている。

近年、氷ノ山山麓の集落・鶴縄地区では、地区をあげて森林を再生するため、杉・桧やチシマザサを伐採・刈払いし、広葉樹を植樹したり木を育てるため下草の刈払いをする「命育む広葉樹の森づくり事業」や「チシマザサ群落の刈り払いによる広葉樹再生事業」を行うなど地域・各種団体など民間の活力により、森林整備の芽生えが見られる。今後、自然を再生・保護する気運を市内全域に広めるモデル事業・起爆剤にしたい。

ウ 地域文化の活用

市内には、地域の歴史に培われてきたさまざまな文化が受け継がれているが、貴重な地域文化の活用が十分に行われていない。

今後は、地域文化の発掘と評価及び活用を行っていくことが重要である。

エ 個性的な特産品や郷土料理の開発

豊かな自然を持つ観光地であり、地域の資源に恵まれているもののそれを生かした魅力的な特産品や郷土料理が不足している。

特色ある文化や但馬牛、農林産物などの地域資源を生かした特産品や郷土料理の開発が必要である。

オ 観光客の減少

氷ノ山・ハチ高原には、一時約80万人の入込み客があり、「100万人のゲレンデ」というキャッチフレーズのもと100万人の誘客を目標にしていたが、現在では約40万人に減少している。

原因は、少子高齢化によるスキーヤーの減少、新しいスキー場の開発、特色ある特産品・料理の不足、幹線道路（国道・県道）から観光地・景勝地までの道路が未整備であること、ハイキング・登山コースや身近な動植物を観察・楽しむことができる施設の未整備があげられる。

カ 加速する少子高齢化

養父市の高齢化率は、29.2%と全国比を大きく上回り、憂いを感じている。出生率は1.84人と兵庫県で1位であるにもかかわらず、地場産業の低迷、雇用機会の減少などにより、地元で定住しないで都市部に流出してしまうことに歯止めがかからない状況である。

地場産業の再生、企業誘致など雇用の機会を増やすことが急務になっている。

(5) 今後の方針

養父市は、これまで4町で行ってきた施策を踏襲しながら、豊かな自然や遺産を有効に利用した「まるごと自然～但馬中央の郷 養父市」を目指している。

「まるごと自然」は、養父市の最大の地域資源である豊かな自然資源を活かしたまちづくりを意味する。養父市は、総面積の約84%を森林が占めその合間を縫うように清流・八木川、大屋川が円山川に合流し、市の中心部を流れ、豊岡市へとそそいでいる。

地球温暖化防止対策の一環として森林資源が重要視されつつあること、水資源の環境保全に地域住民と連携した活動を進めるべきだという考え方が普及しつつあること、豊かな自然が地域活性化のための資源として評価されていること、広葉樹林の再生が安全なまちづくりにつながるとの認識を持ち、その輪が広がりつつあることなどを踏まえ、人が豊かな自然を保護・利活用しながら養父市の特性・自然を活かした産業の再生・育成を図り、環境に優しいまちづくりを目指している。

「但馬中央の郷」は、豊かな自然とともに数多くの歴史・文化遺産を活用することで、都市と農村との交流拠点、地域間の交流拠点を目指すことを意味している。

今回、この地域再生計画では、道整備交付金により交流拠点を結ぶ新しいネットワークをつくることにより、更なる交流の促進、観光・農林業・商業の振興、地場産業の再生、新しい産業の創造、雇用の確保などを図り、「まるごと自然～但馬中央の郷 養父市」の実現を目指している。

(目標1) 道路、農林道整備による拠点施設へのアクセス改善

・時間短縮することにより、その間を移動することに係る経費が少なくなるほか、燃料消費が少なくなり、二酸化炭素の排出量を少なくすることができる。

○但馬長寿の郷などのトガ山ゾーンと小佐地区の時間短縮

(市道高柳小佐線 15分 → 8分)

○主要地方道関宮小代線と鶴縄地区の時間短縮

(市道鶴縄線 5分 → 3.8分、

路線バス(マイクロバス)とのすれ違い不能 → 可能)

○国道9号と養父市役所へのアクセス向上・時間短縮

(市道八鹿朝倉線 10分 → 7分)

○国道312号と岩崎地区の時間短縮

(市道岩崎線 10分 → 8.5分)

(目標2) 農林業の振興と但馬の風土にあった地域環境の改善(特産品の育成、広葉樹林の再生・保護)

・林道が通行可能になることにより、林産物(材木・しいたけ等)の集出荷や森林の下刈り・枝打ち・間伐などの維持管理作業が容易になる。また、登山道・山道などと連絡することにより、珍しい動植物の生息地・景勝地などと連絡することができるほか、森林浴の場所にも活かすことができる。

○林道開設による通行可能箇所を増

通行可能区間 → 2箇所増

○広葉樹林の再生（「命育む広葉樹の森づくり事業」、
「チシマザサ群落の刈り払いによる広葉樹再生事業」（平成 14 年度開始）

植樹面積…3.0ha → 4.6ha

○間伐実施面積 → 65ha 増（平成 23 年度）

（目標 3）農山村風景の再生

○棚田オーナーの数…80 区画・50 オーナー →
100 区画・60 オーナー

○ラベンダーオーナーの数とフェスティバル入場者数…
80 オーナー・1,200 人 →
100 オーナー・1,500 人

（目標 4）若い人が定住でき経済的活力のあるまちづくり

（地場産業の再生・企業誘致等）

○有機・減農薬栽培面積…64.1ha → 75.0ha

○観光客数（スキー場関係）…40 万人 → 45 万人

○企業誘致数（合併後）…0 企業 → 5 企業

5. 目標を達成するために行う事業

（5-1）全体の概要

主要地方道養父宍粟線と一般県道日影養父線を南北に結ぶ道路「市道高柳小佐線」は、トガ山を挟み高柳地域と九鹿地域の間を連結する重要な路線である。また、高柳側に高速道路のインターチェンジも予定されており、九鹿側は、市道知見八鹿線改良工事が、平成 19 年秋に完成する予定で、八鹿インターチェンジと豊岡市にある神鍋高原を最短距離で結ぶ道路として、新しい交通ネットワークを構築することへの期待がますます高まっている。

「市道鶴縄線」は、国道 9 号・主要地方道養父小代線から安井・鶴縄集落を経て、氷ノ山登山口、氷ノ山国際スキー場を結ぶ重要な路線である。しかし、幅員が狭小で、大型車通行及びすれ違い通行が不可能であり、地域間交流のみならず、地域生活にも大きな障害となっている。

そこで、当該道路を拡幅整備し、この道路本来の機能を発揮させ、国道 9 号・主要地方道から安井・鶴縄集落を経て、国定公園へのアクセスの向上を図る。

氷ノ山山麓（鶴縄溪谷）で実施中の「命育む広葉樹の森づくり事業」や「チシマザサ群落の刈り払いによる広葉樹再生事業」を推進し、美しい自然を後世に伝える。

「市道八鹿朝倉線」は、国道 9 号と主要地方道養父山崎線を南北に結ぶ重要な路線である。沿道に木材市場があるにもかかわらず、大型トラックの通行が困難な状況である。

当該道路を拡幅整備し、この道路本来の機能を発揮させるとともに、合併後の市役所へのアクセス道として新しい交通ネットワークを構築し、地域内交通の円滑化、歩行者の安

全確保を図る。

「市道岩崎線」は、幅員が 3.5m と狭く、急な山と農地の間を走っており、迂回路も全くないため、土砂崩れなどですぐに孤立してしまう。平成 16 年の台風 23 号でも 2 箇所で大きな土砂崩れが発生し、孤立したうえに土砂崩れにより河川が堰き止められ、水が溢れ出すなど大きな被害にあった。

岩崎集落、集落の周りがある森林・林道から主要な道路までの道路整備を図る。

また、林道は、森林の多面的機能の持続的発揮、林業・林産業の振興、山村地域の活性化に不可欠な施設であり、本計画では、森林施設、自然散策、森林浴、登山道などをはじめ、通勤等の生活道路としても活用されている路線について整備を行う。まず、「林道須留ヶ峰線」については、森地区の県道森大屋号線を起点に、朝来市佐囊地区の国道 429 線まで連絡する線形となっている。当該林道は、朝来市との市境に位置する須留ヶ峰（標高 1,053m）をはじめ、1,000m 級の山岳地域を縦断する県内で最も高規格な林道であり、沿線には豊かな人工林が広がっていることから、これらの森林の適切な保安全管理が強く求められている。効率的・効果的な森林整備を推進していくには、森林整備に直結した林内路網の整備が絶対条件となるが、その骨格的な位置づけとなる「林道須留ヶ峰線」の開設整備は、これまで到達することさえも困難であった山間奥地林へのアクセスが向上するほか、森林整備に直結した森林管理道や作業道等の支線を計画的かつ容易に設置できる。

「林道本谷線」は、森林へのアクセス機能を向上させ、林業の効率化を図るとともに、森林管理道「八木谷・大谷線」と連絡し、アクセス機能を向上させる。

通称「妙見道」と呼ばれる登山道とも連結し、点在する滝、美しい紅葉樹林などを眺望できるため、自然散策、森林浴など、地域の活性化に期待が寄せられている。

さらに「東鉢体験村・グリーンツーリズム事業」、「別宮 ラベンダー・棚田のオーナー制度」、「轟大根ファンクラブ」、交流人増加事業「大屋棚田オーナー制度」、「岩崎 むらづくり委員会事業」、「城下町 八木の明日をつくる会事業」、「小佐 赤米の田植え・稲刈り交流事業」、「姉妹提携都市(北海道留寿都村)との交流事業」、「交流協定都市(兵庫県明石市)との交流事業」など従前から養父市内で行ってきた、交流事業、また、地場産業の再生、地域の特性を活かした新しい企業の誘致をさらに推進、定着させるため、地域住民の参画による事業実施を推進することで養父市らしい交流・観光事業を確立し、再び訪れたくなる市、さらには住みたくなる市を実現する。

(5-2) 法第 5 章の特別の措置を適用して行う事業 道整備交付金を活用する事業

対象となる事業は、以下のとおり事業開始に係る手続き等を了している。なお、整備箇所等については、別添の整備箇所を示した図面による。

○ 市道（高柳小佐線）

：道路法に規定する市道に平成 2 年 6 月 25 日に認定済

○ 市道（鶉縄線）

- 市道（八鹿朝倉線、岩崎線）
：道路法に規定する市道に平成 5 年 3 月 29 日に認定済
- 市道（八鹿朝倉線、岩崎線）
：道路法に規定する市道に昭和 60 年 3 月 28 日に認定済
- 林道（須留ヶ峰線、本谷線）
：森林法による円山川地域森林計画（平成 17 年 4 月 1 日樹立）に路線を記載

[施設の種類（事業区域）、実施主体]

- 市道（養父市） 養父市
- 林道（養父市） 兵庫県、養父市

[事業期間]

- 市道（平成 19～23 年度）
- 林道（平成 21～23 年度）

[整備量及び事業費]

●整備量

- 市道 L=2.89km
- 林道 L=1.58km

- 事業費 914,000 千円（うち交付金 457,000 千円）
（内訳）市道 554,000 千円（うち交付金 277,000 千円）
林道 360,000 千円（うち交付金 180,000 千円）

(5-3) その他の事業

○地域性を生かした特産品の開発・企業誘致

養父市には、世界一のブランド「但馬牛」の畜産農家が多数ある。農産物、林産物などの地域資源を生かし魅力的な特産品を育成することや清流にしか住まないヤマメ、アマゴなどの魚や豊富な山菜、農産物、林産物を利用した郷土料理の開発が急務である。

また、妙見杉をアピール、利活用するための施策も緊急的な課題である。

地域の特性（豊かな自然・美しい空気や水）を生かした企業誘致を積極的に進めていく。

○体験型観光施設の充実と伝統文化の継承

氷ノ山・ハチ高原などの観光資源を最大限に利活用するために、身近な動植物や貴重な動植物を観察できるゾーンや施設、澄み切った空気を体感できる施設や星空を観察できる天文台などを整備する。

天滝、布滝などの景勝地までのアクセス道路、登山道、ハイキングコースを整備する。

平成 15 年に国指定重要文化財・葛畑農村歌舞伎舞台で、37 年ぶりに農村歌舞伎の復活公演が実施され、小さな境内に全国から 3 日間で 1,000 人のファンが訪れ、大盛況のうちに終了した。周辺の駐車場、アクセス道路を整備し、近くにある多くの文化財と併せてアピールし、利活用を図る。

○その他

地域再生法による特別の措置を活用するほか「まるごと自然～但馬中央の郷 養父市」を実現するため、以下の都市と農村交流を促進するソフト事業を総合的かつ一体的に行うものとする。

- 1) 東鉢体験村・グリーンツーリズム事業
- 2) 別宮 ラベンダー・棚田のオーナー制度
- 3) 轟大根ファンクラブ
- 4) 交流人増加事業「大屋棚田オーナー制度」
- 5) 岩崎 むらづくり委員会事業
- 6) 城下町 八木の明日をつくる会事業
- 7) 小佐 赤米の田植え・稲刈り交流事業
- 8) 姉妹提携都市(北海道留寿都村)との交流事業
- 9) 交流協定都市(兵庫県明石市)との交流事業

6. 計画期間

平成 19 年度～平成 23 年度

7. 目標達成状況に係る評価に関する事項

4に示す地域再生計画の目標については、この計画期間終了後に兵庫県、養父市が必要な調査を個別に行い、現状を把握し目的達成状況の評価、また、その時点での改善すべき事項の検討を行うこととする。

8. 地域再生計画の実施に関し、当該地方公共団体が必要と認める事項

世界一の但馬牛の産地育成、但馬の気候を利用した、高冷地軟弱野菜の栽培促進等地域資源の核となる農林業の振興のため、中山間地域総合整備事業を実施する。